

2018年度年末手当に関する申し入れ 第2回交渉を行う! その2

申9号 11月8日

各部会・系統から職場の声を強く訴える!

営業

- ◆日々の収入確保、ホーム上の安全確保、サービス品質の向上など、「ゆとり」を感じることができないほど、努力し続けている。
- ◆ベテランの先輩がいなくなる中で、若手組合員は必死に勉強し、安全とサービスを低下させないように努力している。

運車

- ◆職場は依然として要員不足が続いている。ほとんどの職場で、ほぼ毎日、休日出勤をしなければ行路が回らない事態が続いている。
- ◆定期行路すら休日出勤に依存しなければいけない事態なのに、さらに季節臨は今以上に休日出勤をせざるを得ない。

工務

- ◆台風が多く接近し、特に24号では東日本エリア各地で飛来物や倒木など、多くの被害が生じた。しかし、悪条件の中でも迅速に対応し、早期復旧に奮闘してきた。
- ◆新たな技術の習得と従来からの技術力を学び、現場では巡視等での設備の勘どころを身につけることで、鉄道の安全を守っている。

かんり

- ◆昭和採が退職をむかえるまで時間がない中、各種委員会活動、マイプロジェクト等を通じて、社員とのコミュニケーションを深めながら人材育成を行っている。
- ◆大雨や強風など自然災害による輸送障害時の復旧作業の陣頭指揮を担い、早期復旧のために不眠不休で奮闘している。

きかく

- ◆「変革2027」発表以降、施策完遂へのスピードが上がっている。「前例踏襲型であった支社の仕事を変えていかなくては目標が達成できない」と不満の声も上がっている。
- ◆非現業社員が現場に立っての案内、災害対応要員、連絡要員対応など、これまでとは違う新たな取り組みを行ってきた。

医療

- ◆テンポラリースタッフは、正規雇用先を見つけると早々と退職していき、その後の補充に際しても、募集しても人が集まらずに慢性的な要員不足の中で日々の業務をしている。
- ◆安全輸送の根幹である社員の健康を守り、社員とその家族、地域社会への貢献を目的として日々業務にあたっている。

建設工事

- ◆川崎駅改良工事など、大規模な工事を着実に完遂させてきた。京浜東北線と軌陸車の衝突事故から、安全に着実に作業を進めることに集中してきた。
- ◆現場では、ノウハウを後任に渡したくても関わっていくことが難しい。要員配置と業務の課題は、今後解決しなければならない課題だ。

青年部

- ◆検修職場は、限られた要員や設備条件の中で車両検査をやりきり、特にコンプライアンス上の問題が出ないように対処し、輸送商品である車両を確保してきた。
- ◆保線職場にモニタリングシステムが導入されたが、落雷による故障が発生している。また、検測はできるがシステムに反映されない事象も発生している。

会社は、現場を失望させないよう、「満額回答」で応えるべきだ!

職場の奮闘なしに会社の発展はない!
満額回答を強く求める!